

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心会 発行

現在会員数 148名
地区別 294名
所在地 64名
（逗子・葉山・大船・大磯）（506名）

58年4月号（129号）
4月発行 者 萃 岳
根 岸 岳 集
編 村 愛 岳
中

「誠」の心の大切さ

松井岳洋

「誠」は人の守るべき道

「大学」の教えに修身（身を修める）あり。修身のうち、「誠意・正心」を、その身を修めんと欲するものは、まずその心を正しくす。その心を正しくせんとするものは、まずその意を誠にす。という。

昔、宋の大政治家にして大学者である司馬光に、門人・劉安世という者、問うていわく、「人の一生涯守って余りある道とは何か」と。公、即座に応えて言う。「誠なり」

われわれは純真な「誠」の心をもって吟道を研鑽することにより、天地の正気を養い、人生のあらゆる難関にも屈しない気力、気魄を蓄えることができる。また、先賢の詩心詩魂に触れて情操を豊かにし、人の歩むべき正道を自覚して自己の人格形成に励み、さらに広く社会風潮の浄化、日本古来の精神文化の昂揚にと、吟道をして価値あらしめる使命を自覚したいものである。幸いにして吟道の普及発展は年とともに

目ざましく、質的にも向上しつつあることは喜びにたえない。

かつて、いまだ詩吟の何たるかも知られていない時代に、単身、その普及に全生命をかけられたわれらの祖宗範・木村岳風先生の霊も、さぞかし満足されておることであろう。

「誠」の心と吟技は車の両輪

われわれ吟道に志す者、特に指導者の立場にある者として常に心すべきことは、多数の中から選ばれた優秀吟士として晴れて天下に自己の吟を認められ、賞揚されるに至った人々への指導である。だれしも自分の技量を賞められれば内心喜ばぬ者はないのが人の常とはいえ、この瞬間こそが、将来さらに伸長し得るか、あるいはそのまま終わるかの正念場なのである。もし、本人に吟技に伴うべき自己を修める心ができていないとなると、必ずや慢心が生じ、「自分の吟も相当なものだ」はまだしも、時には「先生よりできる」などと思いがかる

ようになる。反省も謙虚さも皆無であるとしたら、車の両輪の一方を欠いたがごとく、せつかくの秀れた吟技も、その完成をみることはなくなるのである。

特に精神的成長を不可欠とする吟道においては、自己を修める「誠」の心が「吟技」の輪の相対の一輪となることこそが、吟道の完成に最も大切である。「誠」の心を主体に修養を積み、人の尊敬を得る人格者に成長すれば、いきおい吟技も磨かれ、人徳から滲み出る風格ある吟をもって人の心を惹きつけることが可能になるであろう。一方、喉にあまり恵まれぬゆえに、修煉途中で将来の見込みをなくし諦めようとする者もあるが、それは吟技のみに心を奪われていて自己の修養が足りないからである。吟道とはそのような底の浅いものではない。たとえ喉に恵まれていなくとも、自己の人格向上に努め、詩文の勉強、吟技の研鑽に不断の努力を積み、いつの日にかは岩清水のじわりと滲み出ることが詩魂詩情の域に達し、一吟をもって人をして耳傾けさせる感動的な滋味あふれる吟に到達できるものと思う。

誠心と吟技 ―車の両輪のごとし、心、技ともに秀れた立派な吟道家が多く輩出することを切に願ってやまない。

新装第一号によせて

中村幸岳

十年余り会員の皆様に愛されてきたこの月報が、このたび新装を新たに、時代にそったタイプ印刷としてお目見えしたことを会員の一人として喜び申しあげます。これを機に、吟道追求の一助として、更に充実した内容となるようみんなで協力してゆきたいものです。

過日理事会で改装の件決定された直後、私は別件にて松井先生宅に伺い、その折、あつかましいと思いましたが、新装号の巻頭に先生のお話をのせることができたらどんなにすばらしいかと、つい口をすべらせてしまいました。当会名誉会長とは申せ、総本部長理事長として東奔西走、寧日ない活躍をされている先生……無理なことはわかっておりましたが「傾心会の皆さんの為、考えましよう」と言われ恐縮しました。ささやかな会報にも常に暖かい眼差しをそそがれ、常に吟道追求に励まれている先生の姿に今更ながら頭のさがる思いです。

四月一日付

奥伝合格

おめでとうございます

加藤聖風 板橋雅風
吉原慎風 福本洋風
守永寿風 重松由風

堀内支部開設二十周年

記念吟道大会

とき・五月一日(日)九時半より
ところ・長柄会館

◎カセットの発行

岳風会 レコード委員会

吟詠教本の参考用レコード・カセットテープの第七集、九集が完成発行されました。
◇代 価：レコード共一八〇〇円(送料梱包別)
◇申込先：教務部長・竹石憲岳

(TEL七五―六四二七)
申込が少数ですと送料梱包等で割高になりますので一括購入を希望



”和合団結のチームワーク”

五十三年九月、まだ蟬の音が残る頃、村田先生のお宅で、知らない者同志七名が一緒に、詩吟の御指導を受け始めてから、早いもので四年半が経ちました。それからメンバーも徐々に増え十一名となり、真澄支部が誕生して満二年になります。仕事の関係で、昼間おけいこができない方のために夜の部もできて、お勤めが終ってから皆熱心に励んでおります。

詩吟という未知の世界にとびこんで日も浅い私達は、幸いにして先生のよきご指導のもと、各地区の大会に合吟で出場させて戴いたり、他の支部の先輩の方々とご一緒に全国大会等に出る機会を与えていただけてまいりました。

毎週のおけいこが楽しみで休む人もほとんどなく、二時間のひとときが、あつという間に過ぎてしまう感じです。午後から仕事を持っている人、病気のお年寄りをかかえている人、みんな忙がしい主婦達ですが大変なごやかな雰囲気の中で、思い切り声を出した後のさわやかさ、一週間のストレ

ス発散と、健康のため、老後の趣味のためと……。

先生は吟道に対する情熱精神が強く、大変迫力のある朗々としたお声で、私共はていねいに教えていただいておりますことを感謝せずにはいられません。

まだまだ詩中の人となれるような吟はできませんが、名誉会長のおっしゃる「和合団結」私達はごく自然に、チームワークのとれた支部だと思っております。これからも奥深い吟道に精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。

菊池祐山・森 晴山記

碩心会支部別会員数一覽表

(58年4月現在)

	支部名	人数	指導者名
逗子地区	A	43	根岸、石津、一柳
	B	8	三井
	山	15	三井
	A	13	三井
	B	19	松野
	間の	9	三井
	根詠	19	三井
	澄月	12	千葉(香)
	真葉	10	村田
葉山地区	堀内	22	根岸、佐藤、石渡
	A	11	加藤(圭)
	B	6	小峯
	C	21	中村(幸) 中村(愛)
	D	10	矢島
	E	15	白井(麗)
	F	13	小形
	警色	29	鈴木(孝) 守谷
	A	34	加藤(岳) 行谷
	山	15	
	原	19	伊藤
	山口	13	脇田
	浦柄	15	沼田
	訪口	10	沼田
	坂	12	竹石
	早	11	井沢
		9	秋元
	17	村上	
	12	杉山	
大船地区	A	18	根岸、立沢
	B	23	三井、森田
	塚和	7	鈴木(幸)
計	27支部	(506)	38名

全国吟道大会に参加

第八十三回

三月十三日(日)九段会館に於て右大会が行なわれ、当会より、根岸岳華先生の独吟と合吟に逗子地区有志四十五名が参加いたしました。当日はあいにく冷たい雨降る寒い一日でしたが、男女の皆さんが、ちょうどよい音程で、力強く精いっぱい合吟されました。お寒いところ御苦勞様でした。

新島 襄

寒 梅

「人間の生き方もかくありたい」

上州人であり、クリスチャンとして有名な新島襄（一八四三〜一八九〇）は安中藩士の子として江戸に生まれた。米国の大学を卒業し、明治八年京都に同志社を設立して、キリスト教主義の教育を創始した。「寒梅」の詩によってその人生観にふれてみよう。

庭上の一寒梅

笑って風雪を侵して開く

争わず 又 力めず

自ら 百花の魁を占む

庭さきにある一本の早咲きの梅が、風や雪に負けずに美しい花を開いた。ほかの木と先頭を争ったわけでもなく、強いて頑張ったわけでもない。ごく自然に、すべての花のトップに立ってしまったのである。

人間の生き方もかくありたいという願いを託した詩であることは言うまでもない。類型的な発想には違いないが、転句の「争わず又力めず」というところにこの作者の独自の主張を読み取るべきであろう。

（吟剣詩舞より）

（移籍）

533 武江ゆき （下山口）より（上原）へ

（入会）

563 藤本朝光 鎌倉市津一〇六九二〇〇

（大船A）（電）〇四六七三二二一一七二

564 中村高三（再）葉山町堀内八〇四

（銀 詠）（電）〇四六八七五一一六一六

565 足立原美枝子 逗子市沼間二一六一一三

（沼 間）（電）〇四六八七七一七四三二

566 大山政重 横須賀市長井町一一八三

（吟 甫）（電）〇四六八七五六一九二四三

567 加藤雪男 横須賀市林三〇七三

（吟 甫）（電）〇四六八七五六一三〇九〇

568 川守田幸子 逗子市沼間二一一五一六

（沼 間）（電）〇四六八七七一七二〇七

569 小坂清子 葉山町堀内七一

（詠 訪）（電）〇四六八七五一一七七四

570 小峯とみ代 葉山町堀内七一

（詠 訪）（電）〇四六八七五一一六一二

571 鈴木 功 逗子市沼間一一六一二

（沼 間）（電）〇四六八七七一六九二二

572 根岸由佳 葉山町長柄五一九

（堀内E）（電）〇四六八七五一一三二八四

573 岡田紀子 鎌倉市城廻二八三一一三五

（真 澄）（電）〇四六七四五一七七七八

574 葉山町上山口一〇五九一三

（唐木山）（電）〇四六八七七八一七一九七

575 村田芳子 横須賀市秋谷六五一

（一色B）（電）〇四六八七五六一八四三〇

576 岩藤重信 葉山町一色一三三六

（星 山）（電）〇四六八七五一一四六二一

577 野崎和美 葉山町上山口一〇三

（星 山）（電）〇四六八七七八一七二二七

578 大山 晃 藤沢市川名一一七一三

（大船A）（電）〇四六六一二二一七四四三

（退会）

205 加藤紅山（堀内D）長尾悦子（桜山B）

441 堀江タカ（唐木山）唐沢 長（横 警）

497 立澤日出美（大船A）新倉優風（下山口）

534 福本カン（下山口）諸川つる（下山口）

536 森ちよ子（下山口）更屋七三夫（下山口）

◎ 月報名称を（傾心）と変更

当月報が新しいスタイルになるに付、常任理事会に於て表記のように名称変更の件決定されました。名付親である松井岳洋先生に、加えて題字の揮毫をお願いいたしましたところ心よくお受けいただきましたことと会員一同心から御礼申しあげたいと思えます。名実共の傾心会となるよう皆さんがんばりましょう。